

大島塾新聞

ムロノキ
新聞社

第14号

広告



五島列島釣行記

二〇一九春の五島釣行記

令和元年六月八日(土)中潮

満潮十二時、干潮六時

今回ほど事前にやきもきしたこと
はなかった。週間天気予報は最悪で、
三日前の水曜日になつても当日の降水
確率は九〇%の大型低気圧、ヤフー
予報には「丁寧にも雷印までついてい
た。「今回は断念か」とあきらめムー
ドが拡がったが、奇跡的に木曜から好
転、しまいには晴れマークまで出る急
展開となつた。気分も一気に急上昇、
仲間内ではうひゃうひゃメールが飛び
交つた。弔休の向根がひとり蚊帳の
外。「残念だが必ず土産の尾長をもつ
てくるからな」と心のこもらない別れ
を告げ、木村と筆者は六月七日、午
後から年休をとつてさっさと岩国を後
にした。

明るいうちに佐世保に着き、半年
ぶりに「お栄さんの暖簾をくぐった。
絶品のちゃんぽんと、今回はぱりぱり
の皿うどんもふたりで二皿注文した。
ちゃんぽんを食べた後に手を付けた皿
うどんは、すでに満腹だったためか特
別な感動はなかった。最終備品調達の
ためかめやとセブンに寄り道したが、
それでも九時前にはばらもんに到着
した。二階の寝所には
はありがたいことに
焼酎に氷まで用意
していただいた。



またきたぜ、お栄さん



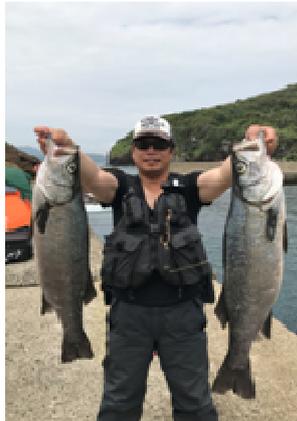
ひとしきりご馳走になり就寝。残りの
メンバーは仕事を終えての出発で、到
着したのは午前一時。そこから彼らは
宴会を始め、筆者が気づいたのは深夜
二時。ひとときわ宇田さんの声が大き
い。きつと筆者が寝ているのがさびしく
てわざと起こそうとしているのだなと
察し、起き上がってひとしきりお付き
合ひした。木村は気づかないふりをし
てじつと我慢していたらしい。
翌朝はまだ曇り空だったが、天気は
これから良くなっていく。みんなは短い
仮眠を取るべく渡船の船室に潜り込
んだが、筆者と古谷はデッキに残った。
一時間余りのクルージングを楽しみ、
一組を野崎島の南磯に降ろしその後
は一路六島へ。希望通りP2、R2と
筆者は千畳敷、残り四名(宇田さん、
谷川、古谷、木村)は福祉の波止に上
げてもらった。来ることのできた喜び
をかみしめ、天に感謝しながら「令和」
初の六島釣行は幕を開けた。



夢を詰め込んで...

【スズキが怒涛の高活性】
今回はいつにもましてルアー組が輝
きを放った。まずは古谷。福祉の波止
周辺を皮切りに千畳敷、果ては墓の下
までRun gunして八〇センチ級のヒラス
ズキを二尾、さらに根魚狙いのメタル
ジグでは四〇センチオーバーを含むアカハ
タ、アユウを連発し「福祉の波止まわ
りの地形はすべて頭に入れました」と
豪語した。ただし授業料として一万
円分のルアーを失くしましたがね、と
頭を掻いた。引き出しの多いこのルア
ーのスペシャリストは毎回見事な釣果
をたたき出しているが、この日は五島
二回目のP2が、彼に勝るとも劣らな
い成績を残した。
前日までの時化の余波で千畳敷奥
には一面サラシが拡がっていた。すば
やくタツクルをセットしたP2、到着
後間もなくからバイブレーションプラ
グを投入し、早くも三投目に七十センチ
級のヒラスズキを釣り上げた。「こんな
大きな魚は初めて」。取り逃がすまい
と水際まで出て抱きしめるように捕
獲。その時頭から大きなしぶきをか
ぶったP2はしばらくの間、パンツ姿で釣
りを続けた。その後も六十センチ、夕方に

は八一・五をを追加した。針掛りしなかつたアタリもかなりあつて楽しそう。そのうなると筆者得意の「ちよつと貸して♡」。左ハンドルがやりにくかつたので右に変えてくれと頼んだ。……。いま「面倒くせえジジイ」って言ったたろ?と聞くと一瞬ぎくりとした表情で「いいいえ」と目を泳がせた。借りたタックルで三回ほど振り込んでみたが飽きたのでやめた。



古谷とP2はスズキ爆釣、よく見りゃP2パンツ姿

【猫たちは生きていた】

R2は三十一歳、この日が五島デビューである。事前にちゃんと練習しておくよう散々忠告しておいたのだが、今どきの子には伝わりにくい。インナーロ

ツドのライン通しから始まって、まあ面倒みましたよ。開けっ放しのバッグから猫に盗まれそうになったムスピを取り返してあげたのも筆者です。暗くなつたらヘッドライトが壊れていて点かない。このまま寝るか?と聞くと嫌だという。福祉の波止に電話すると谷川君に予備があるというので、携帯の明かりを頼りにR2は山越えて十五分の道のりを借りに行つた。夜の山道が怖くないのか?と筆者とP2は顔を見合わせた。

そこで事件が起こつた。ライトを受け取つた帰り道のR2、ガサツという音に振り返ると藪の中に光る眼がふたつ。猫かと思ひ「しつ」と威嚇すると「ぐるる」といううなり声とともに白い牙が見えた。いのししだ。戻つてしばらくしてからこの話をこともなげにするのだから今どきの子はいよいよわかりにくい。襲われなくてよかつた。翌朝みんなにこのことを伝えるとき一時騒然となつた。六島にいのししがいたとは。あれだけ心配していた猫たちの生存がすっかりかすんでしまった。



驚きの話題提供はよかつたが、R2よ、また本当に五島に来たかつたら最低限のことは学んでおくのだよ。次回は谷川講師に引率を頼んでいるが、指導はそれで最後。次々回には独り立ちさせるのでくれぐれも精進しておくように。でも、最後に三五のアカハタを自力で仕留めたことは褒めておこう。

【福祉の波止の面々】

佐世保に向かう行き道中木村のイカ釣り論に傾聴した。餌木に抱き着く前に触手で確かめてくる、これをイカパンチと呼ぶのだそう。それがわかるというのだから驚いた。そして大型のアオリイカは港の外側にいるので、今回港内の小型は相手にせずその大型を狙うと。残念ながら大島塾記録の二kgにこそ及ばなかつたものの、その言葉通り一・八kgの大アオリを釣り上げた。夜のカゴ釣りではイサキの数を稼いだのは谷川だつた。日中にはジグヘッドの軽装備で千畳敷にやつてきたかと思つたとあつさり良い型のアカハタを何匹も釣り上げた。もはや谷川に猫の恩返しは無用なのか。だがもしこれに恩返しに加わつたら我が家の食卓はどれほど豪華になるのだろうか、楽しみ〜。



もはや谷川猫いらす

たぶんこの日の夜は真鯛やグレの活性が低かつたのだから、目を見張るような獲物も数も出なかつた。筆者が密かに「ポーリーさん」と呼んでいる常連さん、いつも大型の魚でクーラー満タンなのだが、はだか瀬に上がった彼もイサキばかりだつたそう。そんな中、明け方に大きな口太グレを手にしたのは宇田さんだつた。口太五〇の価値をみんな知らないと思うから言うけど、口太五十は最大個体サイズ、真鯛というなら八〇に匹敵する大物なんです。四九・八が塾頭権限で認定五〇にしたところだが、宇田さんが末代まで「疑惑の五〇」などといじられたらいけないので、測定結果をもつてしつぷり当塾口太グレの正式記録とする。

しかし誰じゃ、計測したのは?勢いで「ジャスト五〇!」と叫ばんかい怒。



寝た子も起こすぜ

【千畳敷のタマヅメ】

筆者は午前中波止のテトラからのフカセで上げ潮を粘つてみたが、一号ウキで十畳まで落としてもタカバの攻撃をかわすことはできなかった。この時期だから仕方があるまい。千畳敷は平坦な地形で体力的には楽、さらに雨よけの屋根があるのでいざ雨が降っても逃げられるという非常に条件の良いところなのだが、これまでグレ好釣の記憶がない。タマヅメはこれまでやつていなかった奥に釣り座を構えた。空がきれいな夕焼けに変わるころP2の「あー」という声が聞こえた。You Tubeでフカセの修業をしてきたらしいが、まだ良型尾長には歯が立たなかった。一度バラすと往々にしてアタリが遠のく。その後P2に大きなアタリは来なかった。同じころ筆者のウキにもアタリが出始めた。この日初の四十オーバー尾長を掬ったときには、「向根のぶんー」と雄叫びをあげた。約一時間で四十~~セ~~級三尾、三十オーバーを入れると六く七尾の尾長を確保、バラし一回あり。翌朝も試みたが五時前にはタカバが集まり、もう釣りにならなかった。千畳敷の夜は潮が上がつてカゴ釣りができず、仕方なしに波止に上がつてみたが何事もおきなかった。

これまでの経験も踏まえると千畳敷はルーア釣りには最適だがカゴにはやはり不向き。潮に洗われて釣りができない満潮前後の時間帯をいかに過ごすか、その日の潮によってあらかじめ計画を立てておく必要がある。それからアオリイカの情報が乏しいので、波止の外向きテトラで誰か大イカにチャレンジしてはくれないか。



千畳敷のタマヅメ、やはり尾長が

紙面で紹介した以外にも結構みんな釣っており、今回も楽しい釣行となった。後日R2がやってきて嬉しそうに料理した魚の写真を見せてくれたので紹介する。なぜほとんど釣りをしたとのなかった彼がついてくるのか、ほんとに來たいのか、なにかたくらみがあるのでは、などと勘ぐっていたが、その姿を見て本当に楽しんでいることが分かつた。



R2の食卓、奥にもう一つ
ごはん茶碗。女の影？

た。子供を疑ってはいけない、すまぬ、R2よ。

そんなこんなで二〇一九年春の例会、今回の**MVP**は二回目の五島にして三尾のヒラスズキとアカハタを数釣ったP2に決定。筆者がもらった(没収した?)六〇~~セ~~スズキはフライとカマの塩焼きが美味かったが、これは決して賄賂ではございません。



【編集後記・告知】

今回はスズキと根魚の釣果に目を見張った釣行だった。大島塾マスターズにもすっかりルーア釣りが定着した感がある。元祖の重安がいたらきつともう一波乱あったことだろう。次回は十一月十六日から三十日に行きますので予定を調整しておいてください。ルーアチームの人たち、秋にはヒラマサを期待します。作ちゃんは筆者とはだか瀬に行こうな。日取りは九月に入って最終決定します。

最後に伝達事項をもう一つ。大島塾マスターズも徐々に年齢を重ね、五島にいつまで行けるかというつぶやきも出始めました。また当分先の事と思いますが、一応暫定的な規約として「下の始末を自分でできるあいだ」とします。(文責・福)



Gallery



疑惑の50センチ、えっ？



でも、あすはいい天気 ♥



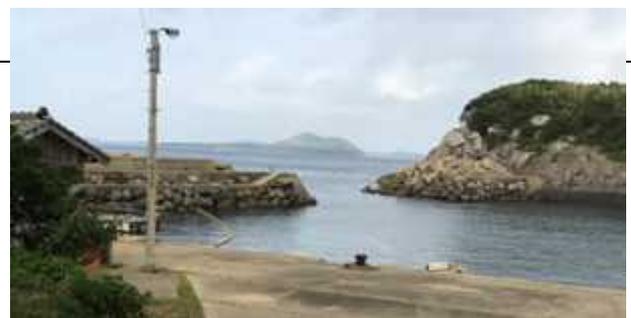
公約通りの大アオリ



皿うどん、ソースでどうぞ



どさくさまぎれ、周防大島神浦
63号、ハリス1号〜筆者



最後の最後にR2、よかったね



